

Science Communication Tips

サイエンスコミュニケーションの考え方やアイデア
実践の事例をご紹介します。

vol. OI

Case 01

どうする？イベントの告知と宣伝

広報イベントや研究集会、報告会などを開催する場合、内容の充実と合わせて考えなければならないのが、告知・宣伝方法です。今回は科学関連イベントの宣伝アイデアについてご紹介します。

公益財団法人 水産無脊椎動物研究所様の事例

イベント宣伝の重要性はわかるけれど、時間も予算もそれほどかけられない…というケースも多いのではないのでしょうか。そんなときにオススメなのが、一つの素材を複数メディアに展開する方法です。

右のイラストは、水産無脊椎動物（水の中に住む背骨のない生き物）の研究を推進する公益財団法人水産無脊椎動物研究所様の財団設立30周年記念シンポジウム『サンゴとサンゴ礁の生き物たち』のために作成したものです（イラスト：やまねよしこ、ディレクション：椿玲未）。

サンゴ礁に住む生き物たちの活気あふれる姿が描かれたこのイラストは、本イベントのキービジュアルとして使用されました。一見ただけでも賑やかで楽しく、華のあるイラストですが、実はサイエンスイラストならではの工夫や仕掛けが隠されています。

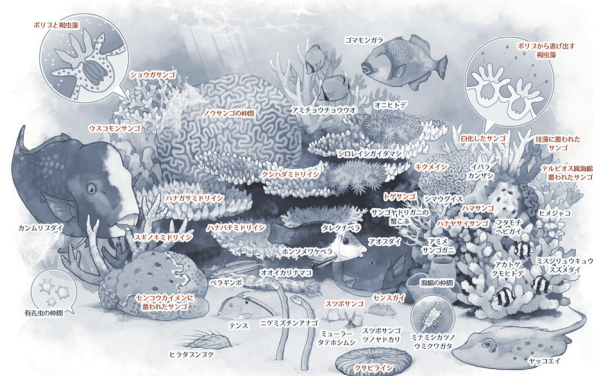
Point 1 種の特徴をおさえた正確な描写

イラストに登場する40種を超える生物はすべて、資料や文献を丹念に参照して正確に描かれています。それぞれの生き物の特徴を捉えた生き生きとした描写は、本イベントにご登壇いただいた講演者の皆さまにも高くご評価いただきました。



© やまねよしこ

2018年9月22日に開催された公益財団法人水産無脊椎動物研究所設立30周年記念シンポジウム「サンゴとサンゴ礁の生き物たち」キービジュアル。



© やまねよしこ

イラストに描かれた生物の種名。幅広い分類群に渡る動物が、いずれも正確に描かれている。

Point 2

イラストと連動したカウントダウン企画

このイラストの一番のポイントは、1枚の中に8つのテーマが隠れていることです。

それぞれのテーマに沿った題材同士を近くに配置することで、一枚の中に異なるテーマを持った8枚のイラストが浮かび上がってきます。これら8枚のイラストが連なって、大きな一枚絵になるという仕掛けになっています。

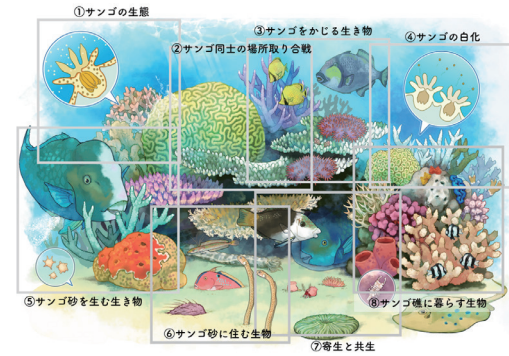
これら8つのテーマに関するコラムも作成し、イラストと合わせてSNS（Facebook, Twitter）で8回にわたり順次公表するカウントダウン企画を実施しました。

イベント告知の投稿は一度きりではなく、日時を変えて何度も投稿するケースがほとんどだと思います。しかし、毎回同じ内容の投稿では、どうしても飽きられがちです。別々にイラスト制作やコラム執筆を注文するよりも予算を抑えつつ、毎回新しいイラストを準備できるカウントダウン方式は、イベント告知にうってつけです。

Point 3

イベント終了後は、サンゴ礁生態系について学ぶ教育コンテンツとして活用

本イラスト・コラムはイベントの宣伝が第一目的ですが、それだけに止まらず、イベント終了後もウェブ上で公開を続けることで、サンゴとサンゴ礁に関する知識を楽しく身につけることができる教育コンテンツとして長く利用されるようなものになりたいという趣旨で企画しました。現在も水産無脊椎動物研究所様のウェブサイト上で本イラストとコラムは公開されています。



© やまねよしこ

イラストに隠された8つのテーマ。各テーマに沿った生き物同士が近くに配置されており、8つの独立した1枚絵として切り出すことができる。



画像をテーマ毎に切り分け、テーマに沿ったコラムと共に SNS へ投稿



水産無脊椎動物研究所

本イラストとコラムをご覧くださいませ

<https://rimi.or.jp/event/column/>

Science Communication Tips

複数メディアに展開できるコンテンツを作ろう！

一度きりではなく、切り口を変えて何度も発信することで、潜在層にリーチしやすくなります。エウサピアは広報用コンテンツ作成のサポートも行なっていますので、お気軽にご相談ください。

お問い合わせはこちら
info@eusapia.jp

